

●発表日: 令和5年(2023年)5月25日

## 田原市博物館テーマ展「館蔵 太田洋愛展」を開催します

太田洋愛(1910~1988)は、田原市出身の日本を代表する植物画家であり、日本でのボタニカルアートの普及発展を進めました。現在放映中のNHK朝の連続テレビ小説「らんまん」の主人公のモデルである植物学者の牧野富太郎から植物画の指導を受けており、牧野ゆかりの人物でもあります。

この度、令和3年度に当館で開催した企画展「日本ボタニカルアートの巨星 太田洋愛展」の後、洋愛の遺族から寄贈をいただいたスケッチをはじめとした作品を初公開します。

ぜひ、取材いただきご紹介ください。

- 1 開催期間 6月10日(土)~7月30日(日)
- 2 会場 田原市博物館 企画展示室2  
(田原市田原町巴江11-1)
- 3 休館日 毎週月曜日、7月18日(火) ※7月17日(月・祝)は開館
- 4 観覧料 大人310円(240円)、小中学生150円(100円)  
※1 ( )内は20人以上の団体料金  
※2 東三河在住・在学の小中学生は、ほの国こどもパスポートの提示で観覧料無料

### ~太田洋愛と牧野富太郎~

太田洋愛は18歳で満洲(現在の中国東北部)に渡り、植物学者の大賀一郎に見込まれて植物画を学びますが、この際に大賀から牧野富太郎を紹介されました。富太郎自身が優れた植物図を描いていたことが背景にあったのでしよう。

富太郎は洋愛に「植物画を描くということは労多くして報われることの少ない仕事であるが、大変重要な仕事であるのでがんばるように」との言葉とともに画材道具を贈りました。二人は生涯出会うことはありませんでしたが、洋愛は富太郎の恩恵を一番深くうけて植物画を描いていると後年述べています。

洋愛は対象の草花を科学的な視線から観察し、描き出しました。そしてその作品は、学校教科書や植物図鑑だけでなく、芸術作品としての画集まで幅広く提供されました。洋愛の科学から芸術に至った作品の数々をご堪能ください。

<スケッチ>



ペゴニア（1965年）初公開



フウセンカズラ（1962年）初公開

<下絵>



花12か月（1970年代前半）

洋愛は自然界にあるさまざまな草花をスケッチしています。展覧会にも売れ筋の華やかな花の絵だけでなく、自分の好きな地味な植物を出品しています。



太田洋愛肖像写真